

【翻 訳】

『創世記（Liber Genesis）
新ブルガータ版（Nova Vulgata Editio）』邦訳（1）

足立清人	相原稔彦
五十川加津美	鎌田真由美
坂本桃子	杉山範子
平尾政幸	山田順子
山本義行	

翻 訳

『創世記 (Liber Genesis)
新ブルガータ版 (Nova Vulgata Editio)』邦訳 (1)

足立清人	相原稔彦	五十川加津美
鎌田真由美	坂本桃子	杉山範子
平尾政幸	山田順子	山本義行

目次

- I. はじめに (解題)
 II. 『創世記 (Liber Genesis) 新ブルガータ版 (Nova Vulgata Editio)』邦訳 (3章まで) (以上, 本号)

I. はじめに (解題)

本翻訳は、「北星学園大学ラテン語文献講読会」による『創世記 (Liber Genesis) ブルガータ版 (ラテン語訳)』の邦訳である。

「北星学園大学ラテン語文献講読会」とは、「北星オープンユニバーシティ」で開講している「ラテン語講座」修了者による自主的なラテン語文献の講読会である。「ラテン語文献講読会」発足の経緯について紹介する。本邦訳の監訳者である足立は、2009年度から、「ラテン語講座」(前期・後期)を開講している¹。現在(2018年5月)まで、延べ88名の方が受講して下さった。受講者は、ラテン語や言語全般に関心のある方、キリスト教に関心・関わりのある方など、多種多様である²。「ラテン語入門」、「ラテン語初級」、「ラテン語初中級」、「ラテン語中級」と講座名は変わっても³、講座では、何らかの教科書を素材に⁴、文法事項の解説と、練習問題の読解を行っている⁵。講座を開始した2009年度から継続し

て受講して下さった山本義行さん⁶、坂本桃子さん、2010年度から受講して下さった山田順子さんから、ラテン語文法の習得をより確実にするために、ラテン語文献の読解にチャレンジしたい、という要望が寄せられた。そこで、2011年春に、オープン・ユニバーシティの講座とは別個に、ラテン語学習者による自主的な勉強会として、本「ラテン語文献講読会」を立ち上げた。毎年、継続して受講していただくのも申し訳ないし、1回の講義で、レベルの異なる受講者に個別に対応していくのも難しいし、足立自身、オープン・ユニバーシティでの講座を増やすことも、時間的にも物理的にも難しかったからである。月に2、3回のペースで講読会を開催し(近年は、奇数週の水曜日の夜に行っている)、毎回、1時間から2時間、ラテン語文の検討を行っている。講読会の素材(ラテン語文献)は、参加者の興味関心に従って、これまで、柳沼重剛編『ギリシア・ローマ名言集』(岩波文庫、2003年)のラテン語短文(2011年)、

カエサル『ガリア戦記 (Commentarii de Bello Galico)』の一部(2011年), 賛美歌(2012年), 『新約聖書 (Novum Testamentum)』(ヨハネ, マタイ, ルカの福音書の一部)と『旧約聖書 (Vetus Testamentum)』(知恵の書の一部)(2012年, 2013年), ネボス『英雄 (Deuiris illustribus)』ハンニバル論の一部(2013年), セネカ『良き生について (De vita beata)』の一部(2014年~2016年)などを取り上げてきた⁷。講読会は, ラテン語文(1, 2文)について, 訳出の担当者を決めて, 邦訳を発表していただくかたちで進めている。参加者全員で, ラテン語文の文法事項を厳密に確認して, その内容についての検討と確認を行う。特に, 内容の検討については, 参加者, それぞれの理解から, 活発な議論が交わされることもある。その議論を通じて, 足立自身, 文法事項や, 内容について, 考えさせられ, 教えられることも多い。山本さん, 坂本さん, 山田さんと足立の4人で始めた講読会であったが, 2013年度から, 鎌田真由美さん, 2016年度から, 相原稔彦さん, 五十川加津美さん, 杉山範子さん, 平尾政幸さんが加わってくださった。オープン・ユニバーシティの「ラテン語講座」では, ラテン語文献の読解にチャレンジしたい方のために, 「ラテン語文献講読会」を自主的に開催している旨, 紹介しており, 皆さん, それを受けて参加してくださった。ラテン語を媒介とした自主的な講読会のあり方は, 大学(universitas)本来のあり方に通ずるものと考えている⁸。

本邦訳を発表するに至ったきっかけは, 本講読会を開始して7年が経過して, 参加者のラテン語読解の実力が高まってきたこともあり, 参加者との学習・講読の成果を何らかのかたちで公表したいと足立が思い立ったことにある。2017年度春に, 足立から, 講読会・学習の成果をかたちとして残すために, 本学論集にラテン語文献の邦訳を発表するこ

とを参加者に呼びかけた。幸いなことに参加者の賛同を得られたので, 邦訳の素材の選定に入り, 参加者全員の興味関心を擦り合わせて, 『創世記 (Liber Genesis)』プルガータ版(ラテン語訳)を邦訳していくことに決定した。当初, 『旧約聖書』研究の大家である本学教授 山我哲雄先生から, 『*Biblia Sacra Juxta Vulgatam Clementinam*』(1956年)を拝借して, それをテキストとしていたが, 『創世記 (Liber Genesis)』プルガータ版(ラテン語訳)として, より一般的だろうと足立考えた, バチカン市国 (La Santa Sede) HP⁹の「Nova Vulgata Bibliorum Sacrorum Editio」掲載の「Vetus Testamentum」の「Liber Genesis」¹⁰をテキストとして使用することにした。本テキストは, バチカン市国のHPで, 全世界に向けて公開されているからである¹¹。なお, 本邦訳では, バチカン市国HP掲載の創世記テキストと, 『*Biblia Sacra Juxta Vulgatam Clementinam*』所収の創世記テキストの異同を注として挙げている(異同を示す原注と, 訳文に対しての訳注を分けて掲載したかったが, 誌面構成上, 難しかったため, 原注と訳注を併せて, 1つの注として掲載している。見づらいことをご容赦願いたい)。校訂者による読み方と理解の違いを示すためである。ラテン語文の訳出に当たって, その内容の理解のために, 日本聖書協会訳『口語訳 旧約聖書』(日本聖書協会, 1955年), フランシスコ会聖書研究所訳注『聖書 原文校訂による口語訳 創世記』(中央出版社, 1958年), 関根正雄訳『旧約聖書 創世記』(岩波文庫, 1967年), 日本聖書刊行会訳『新改訳 聖書』(日本聖書刊行会, 1970年), 日本聖書協会訳『新共同訳 聖書』(日本聖書協会, 1987年), 月本昭男訳『旧訳聖書 I 創世記』(岩波書店, 1997年), 英訳『*Holy Bible King James Version*』(1954年), 『*Holy Bible New International Version*』(1978年), 『*GOOD NEWS BIBLE TODAY'S*

ENGLISH VERSION』(1992年), ドイツ語訳『Die Bibel Michelangelos』(1996年), イタリア語訳『L'antico Testamento』(1964年), フランス語訳『Traduction Oecumennique de la Bible』(1988年)などをの翻訳を, 注解書として, いのちのことば社編『新聖書注解旧約1』(いのちのことば社, 1976年), いのちのことば社編『実用聖書注解』(いのちのことば社, 1995年)を, さらに, C.ヴェスターマン著・山我哲雄訳『創世記1』(教文館, 1993年), ゲルハルト・フォン・ラート著・山我哲雄訳『創世記:私訳と注解 [上]・[下]』(ATD・NTD聖書注解刊行会, 1993年)などを参照した¹²。

本邦訳を発表するに当たっては, 最終的に参加者全員で邦訳の検討を重ねたが, 各ラテン語文の訳出については, 原則として, 担当者の邦訳をできるかぎり尊重することにした。したがって, 原文では同じラテン語が用いられているにもかかわらず, 邦訳が微妙に違う箇所も散見される。さらに, 訳出が進むにつれて, 訳出の仕方も洗練されて, 最初の部分と後半部分とでは, 邦訳・表現に若干の相違が見られる。そのいずれもが, 本講読会の特徴でもあり, 訳出担当者の個性でもあると考えられることから, 訳出の統一を敢えて図ることはしなかった。

本邦訳は, あくまで『『ラテン語文献』講読会』による, ラテン語文献の読解を目的とするものであり¹³, キリスト教学や宗教学の観点から, 「旧約聖書」や「創世記」研究に新たな光を当てようとするものではない。したがって, キリスト教学や宗教学の考え方からすると, 適切でない邦訳・理解もあるかもしれない。その点, 本邦訳の目的を理解していただき, 適切でない邦訳・理解があれば, ご指摘を頂戴したい。それぞれのラテン語文の邦訳は講読会参加者によるものであるが, 本邦訳全体についての責任は監訳者である足立が負う。

以下, 邦訳では, 見開きで, 左頁に, ラテン語原文, 右頁に, 邦訳を記す。

II. 『Liber Genesis (Nova Vulgata Editio)』

1¹⁴

1 In principio creavit Deus caelum et terram.

2 Terra autem erat inanis et vacua, et tenebrae¹⁵ super faciem abyssi¹⁶, et spiritus Dei ferebatur super aquas.

3 Dixitque Deus: “¹⁷Fiat lux”¹⁸. Et facta est lux.

4 Et vidit Deus¹⁹ lucem quod esset bona²⁰ et divisit Deus²¹ lucem ac tenebras²².

5 Appellavitque Deus²³ lucem Diem²⁴ et tenebras Noctem. Factumque est vespere et mane, dies unus.

6 Dixit quoque Deus: “²⁵Fiat firmamentum in medio aquarum²⁶ et dividat aquas ab aquis”²⁷.

7 Et fecit Deus firmamentum²⁸ divisitque aquas, ²⁹quae erant sub firmamento, ab his, ³⁰quae erant super firmamentum. Et factum est ita.

8 Vocavitque Deus firmamentum Caelum. Et factum est vespere et mane, dies secundus.

9 Dixit vero Deus: “^{30a}Congregentur aquae, quae sub caelo sunt, in locum unum, et appareat arida”^{30b}. ³¹Factumque est ita.

10 Et vocavit Deus aridam Terram³² congregationesque aquarum appellavit Maria. Et vidit Deus quod esset bonum.

11 Et ait Deus³³: “³⁴Germinet terra herbam virentem et herbam³⁵ facientem semen³⁶ et lignum pomiferum faciens fructum iuxta genus suum, cuius semen in semetipso sit super terram”³⁷. Et factum est ita.

12 Et protulit terra herbam virentem³⁸ et herbam afferentem semen³⁹ iuxta genus suum ⁴⁰lignumque faciens fructum, qui habet in semetipso sementem⁴¹ secundum speciem suam. Et vidit Deus quod esset bonum.

13 Et factum est vespere et mane, dies tertius.

14 Dixit autem Deus: “⁴²Fiant luminaria in firmamento caeli, ut⁴³ dividant diem ac noctem⁴⁴ et sint in signa⁴⁵ et tempora⁴⁶ et dies⁴⁷ et annos,

15 ut luceant in firmamento caeli⁴⁸ et illuminent terram. Et factum est ita.

16 Fecitque Deus duo magna luminaria⁴⁹: luminare maius, ut praeeset diei, et luminare minus, ut praeeset nocti, et stellas.

17 Et posuit eas Deus⁵⁰ in firmamento caeli, ut lucerent super terram⁵¹

18 et praeesent diei ac nocti⁵² et dividerent lucem ac tenebras. Et vidit Deus quod esset bonum.

Ⅱ. 『創世記 (新ブルガータ版)』邦訳

1

1 初めに、神は天と地を造られた。

2 ところで、地は、形をなしていなかった。暗闇が底知れぬ深みの面のの上に〔広がっていた〕⁵³。神の魂が、深遠たる水の上を覆っていた。

3 そして神は、言われた。「光よ、生まれよ。」すると光が現れた。

4 そして神は、光を目にした。それは良きものである。そして神は、光と闇を切り離された。

5 そして、神は光の部分昼、暗闇の部分夜と名づけた。そして、夕方と朝が来ることによって、一日が形づくられた。

6 また、神は言われた。「水のなかに土台を生じよ。そして、水と水を分離させよ。」

7 そして、神は土台を作って、土台の下の水と、土台の上に広がっていた水を分けた。そして、このように造られた。

8 神は土台を天と名づけた。そして、夕方と朝が来ることによって2日目となった。

9 神はまた、言われた。「天の下の水のところに集められ、乾いたところが現れよ。」そして、そのようになった。

10 そして、神は乾いた土地を陸と言ひ、水の集まったところを海と名づけられた。そして、神は目にして、良きものであるとされた。

11 それから神ははっきり言われた。「地は青々とした草と、種を作る草と、地の上で種が中に入っているその種類にしたがって実をなす果樹を生まれさせよと。」すると、そのようになった。

12 そして、地は、青々と茂る草とその種類に従って種をつける草を、そして、自分自身の中にそれ自身の種類に従って実を結び、種を持つ木を芽生えさせた。そして、神は、これは良いことであると言ってご覧になった。

13 そして、夕方と朝があった⁵⁴。第3日目。

14 さらに神は言われた。「天の大空⁵⁵の中に光るものが生じるようにし、昼と夜を区別するようにせよ。そして、しるし、季節、日、年のために存在せよ。」

15 そうして、天の大空の中を明るくして、地を照らした。そして、このようになった。

16 神はまた、大きな光るものを、すなわち、昼を司るためにはより大きな光を、夜を司るためにはより小さな光を、星も造った。

17 神はそれらのものを天の大空におかれた。これは地を照らし、

18 昼と夜をつかさどり、光と闇を分けるためであった。そして神はそれを見て良しとされた。

1

19 Et factum est vespere et mane, dies quartus.

20 Dixit etiam Deus: “⁵⁶Pullulent⁵⁷ aquae reptile animae viventis, et volatile volet⁵⁸ super terram sub firmamento caeli” ⁵⁹.

21 Creavitque Deus cete grandia⁶⁰ et omnem animam viventem atque motabilem, quam pullulant⁶¹ aquae secundum⁶² species suas, et omne volatile secundum genus suum. Et vidit Deus quod esset bonum,⁶³

22 benedixitque eis⁶⁴ Deus⁶⁵ dicens: “⁶⁶Crescite et multiplicamini⁶⁷ et replete aquas maris,⁶⁸ avesque multiplicentur super terram” ⁶⁹.

23 Et factum est vespere et mane, dies quintus.

24 Dixit quoque Deus: “⁷⁰Producat terra animam viventem in genere suo, iumenta⁷¹ et reptilia⁷² et bestias terrae secundum species suas” ⁷³. Factumque est ita.

25 Et fecit Deus bestias terrae iuxta species suas⁷⁴ et iumenta secundum species suas⁷⁵ et omne reptile terrae in genere suo. Et vidit Deus quod esset bonum.

26 Et ait Deus⁷⁶: “⁷⁷Faciamus hominem ad imaginem et similitudinem nostram; et praesint ^{77a}piscibus maris⁷⁸ et volatilibus caeli⁷⁹ et bestiis⁸⁰ universaeque terrae⁸¹ omnique reptili,⁸² quod movetur in terra” ⁸³.

27 Et creavit Deus hominem ad imaginem suam; ad imaginem Dei creavit illum; ⁸⁴ masculum et feminam creavit eos.

28 Benedixitque illis Deus⁸⁵ et ait⁸⁶ illis Deus⁸⁷: “⁸⁸Crescite⁸⁹ et multiplicamini⁹⁰ et replete terram⁹¹ et subicite eam⁹² et dominamini piscibus maris⁹³ et volatilibus caeli⁹⁴ et universis animantibus, quae moventur super terram” ⁹⁵.

29 Dixitque Deus: “⁹⁶Ecce dedi vobis omnem herbam afferentem semen super terram⁹⁷ et universa ligna,⁹⁸ quae habent in semetipsis fructum ligni portantem sementem⁹⁹, ut sint vobis in escam¹⁰⁰

30 et cunctis animantibus terrae¹⁰¹ omnique volucris caeli¹⁰² et universis,^{102a} quae moventur in terra¹⁰³ et in quibus est anima vivens, omnem herbam virentem ad vescendum¹⁰⁴” ¹⁰⁵. Et factum est ita.

31 Viditque Deus cuncta,¹⁰⁶ quae fecit¹⁰⁷, ¹⁰⁸ et ecce¹⁰⁹ erant valde bona. Et factum est vespere et mane, dies sextus.

2

1 Igitur perfecti sunt caeli et terra¹¹⁰ et omnis exercitus¹¹¹ eorum.

1

19 そして朝と夕方が来ることによって、第4日目。

20 再び神は言った。「水は、地を這うものに、躍動する生命を与えよ。そして、空飛ぶものにも、地の上の天の下にいることを欲せよ〔において〔躍動する生命を〕与えよ。〕」

21 神はまた、大きな海の動物と、水がそれぞれのかたちで生み出すすべての躍動する生き物と、その種類に従ったすべての空を飛ぶ鳥を造られた。神は目にされ、良きものであるとされた。

22 神は、これらを祝福して、「勢いを得て増えよ。そして、海の水に満ち溢れよ。そして、鳥たちは地の上に増えよ」と言った。

23 そして、夕方と朝があった。第5日目。

24 また、神は言われた。「地はその種類にしたがって生きもの、すなわち、地の役畜、はうもの、地の獣を生み出せ。」そして、そのようになった。

25 神はそれぞれの形に従って〔地の〕獣を造り、それぞれの種類に従って家畜と、地をばう全てのものを造った。神は目にして良きものであるとされた。

26 次に神は言われた。「我われに形どり、我われに似せて人を造ろう。そして、〔人は〕海の魚、空を飛ぶ鳥、あまねく地上の獣と、地を這うすべてのものを治めさせよう。」

27 そして神は自らのかたちに人を造られた。すなわち、神のかたちに造り、男と女を造られた。

28 そして神は彼らを祝福して、言われた。「生めよ、増やせよ、地をいっぱい満たして、地を従えよ。そして海の魚と、空に飛ぶ鳥と、地にうごめくすべての生命のあるものを治めよ。」

29 神は、「見よ！私はお前たちに、お前たちにとって食物となるように、地上に種をもたらすあらゆる草と、それ自体の中にその種類の種を有するあらゆる樹木をお前たちに与えた。

30 また地のすべての生きもの、空のすべての鳥、地上を動くすべてのもの、すなわち、そのなかに躍動する生命がある。それらに、すべての緑の植物を食べるために与えた。」そして、そのようになった。

31 神は造ったもの全てを見た。見よ、それはとても良いものであった。そして、夕方と朝が来ることによって6日目となった。

2

1 こうして天と地は完成した。そして、それらすべてに必要なものを完成した。

2

2 Complevitque Deus die septimo opus suum,¹¹² quod fecerat,¹¹³ et requievit die septimo ab universo opere,¹¹⁴ quod patrarat.

3 Et benedixit Deus¹¹⁵ diei septimo¹¹⁶ et sanctificavit illum, quia in ipso requieverat¹¹⁷ ab omni opere suo,¹¹⁸ quod creavit Deus,¹¹⁹ ut faceret.

4¹²⁰ Istae sunt generationes caeli et terrae, quando creata sunt.¹²¹ In die quo fecit Dominus Deus terram et caelum^{122_123}

5¹²⁴ omne virgultum agri,¹²⁵ antequam oriretur in terra, omnisque herba¹²⁶ regionis,¹²⁷ priusquam germinaret; non enim pluerat Dominus Deus super terram, et homo non erat,¹²⁸ qui operaretur humum^{129_130},

6 sed fons ascendebat e terra¹³¹ irrigans universam superficiem terrae - ¹³²

7 tunc¹³³ formavit¹³⁴ Dominus Deus hominem pulverem de humo¹³⁵ et inspiravit in nares¹³⁶ eius spiraculum vitae, et factus est homo in animam viventem.

8 Et¹³⁷ plantavit^{138.138a} Dominus Deus paradysum in Eden ad orientem^{139_139a} in quo posuit hominem,¹⁴⁰ quem formaverat.

9 Produxitque Dominus Deus de humo omne lignum pulchrum visu¹⁴¹ et ad vescendum suave,¹⁴² lignum etiam vitae in medio paradysi¹⁴³ lignumque scientiae boni et mali.

10 Et fluvius egrediebatur ex Eden¹⁴⁴ ad irrigandum paradysum, qui inde dividitur in quattuor capita.

11 Nomen uni Phison:¹⁴⁵ ipse est,¹⁴⁶ qui circuit omnem terram Hevila¹⁴⁷, ubi est¹⁴⁸ aurum;

12 et aurum terrae illius optimum est; ibi invenitur bdellium et lapis onychinus.

13 Et nomen fluvio secundo¹⁴⁹ Geon^{150,151} ipse est,¹⁵² qui circuit¹⁵³ omnem terram Aethiopiae.

14 Nomen vero fluminis tertii¹⁵⁴ Tigris^{155,156} ipse vadit ad orientem Assyriae¹⁵⁷. Fluvius autem quartus¹⁵⁸ ipse est Euphrates.

15 Tulit ergo Dominus Deus hominem¹⁵⁹ et posuit eum in paradiso Eden¹⁶⁰, ut operaretur et custodiret illum;

16 praecepitque Dominus Deus¹⁶¹ homini¹⁶² dicens: "163 Ex omni ligno paradysi comede;

17 de ligno autem scientiae boni et mali ne comedas; in quocumque enim die comederis ex eo, morte morieris" ¹⁶⁴.

18 Dixit quoque Dominus Deus: "165 Non est bonum esse hominem solum; faciam¹⁶⁶ ei adiutorium simile sui^{167a_167a}.

2

2 神は行っていた自身の業を7日目に成し遂げた。そして、仕上げようとした全ての業を7日目に休まれた。

3 神は7日目を祝福し、これを聖別した。神は創造し、なしたあらゆる仕事を、その日に、やめたからである。

4 これらが、天と地が造られたときの由来である。主なる神が天と地を造った日において、

5 全ての灌木が地に生え出す前、そしてその土地の全ての草が芽を出す前である。というのは、主なる神は雨を降らせていなかったし、地に従事する人もいなかったからである。

6 しかし、水は地から立ち上がっており、地の表面すべてを潤していた。

7 それから、神なる主は、地から取った土で人を形づくった。そして、その鼻に向かって生命の呼吸を吹き入れた。こうして人は、生命ある生きものとなった。

8 さらに神なる主はエデンの中の東に楽園を造った。形づくられた人間をその中においた。

9 神なる主は見て美しく、食べ物として美味しい、あらゆる木を、さらに楽園の中央には生命の木や善悪を知る木さえも大地から造った。

10 また、一つの川がエデンから流れ出た結果、園を潤し、それはそこから分かれて四つの水源になった。

11 ひとつの名はピソン、金が生まれるところハビラの地全てをめぐる。

12 そして、その地の金はもっとも良いものであり、そこにブドラクが見つかり、縞めめの石も。

13 第二の川はキボンと言う。まさにその川はアエチオピアの全ての土地をめぐっている。

14 第三の川はティグリスと言う。アッシリアの東に流れている。そして、第四の川は、ユーフラテスである。

15 それ故に、神なる主は人を運び、楽園を耕し、楽園を守るように、エデンの園に置かれた。

16 そして、神なる主は人に、「楽園の全ての木から食べよ。」と指示された。

17 「しかし、あなたは善悪を知る木から食べてはならない。もしたとえどんな日にでも、あなたがそこから食べたなら、あなたは確かに死ぬであろう。」

18 また、神なる主は言われた。良くないのは人が一人であることである。自分に似た、助けるものを彼のために造ろう。

2

19 Formatis igitur¹⁶⁸ Dominus Deus¹⁶⁹ de humo cunctis animantibus agri¹⁷⁰ et universis volatilibus caeli, adduxit ea ad Adam, ut videret quid vocaret ea; omne enim,¹⁷¹ quod vocavit Adam animae viventis, ipsum est nomen eius.

20 Appellavitque Adam nominibus suis cuncta pecora^{172.173} et universa volatilia caeli¹⁷⁴ et omnes bestias agri¹⁷⁵; ^{175a}Adae vero non inveniebatur adiutor similis eius.

21 Immisit ergo Dominus Deus soporem in Adam.¹⁷⁶ Cumque obdormisset, tulit unam de costis eius¹⁷⁷ et replevit carnem pro ea;¹⁷⁸

22 et aedificavit Dominus Deus costam, quam tulerat de Adam, in mulierem¹⁷⁹ et adduxit eam ad Adam.

23 Dixitque Adam: “¹⁸⁰Haec¹⁸¹ nunc os ex ossibus meis¹⁸² et caro de carne mea¹⁸³ Haec vocabitur Virago, quoniam de viro sumpta est haec¹⁸⁴” ¹⁸⁵.

24 Quam ob rem¹⁸⁶ relinquet vir¹⁸⁷ patrem suum et matrem¹⁸⁸ et adhaerebit uxori suae; et erunt ¹⁸⁹in carnem unam¹⁹⁰.

25 Erant¹⁹¹ autem uterque nudi¹⁹², Adam scilicet et uxor eius,¹⁹³ et non erubescabant.

3

1 Et¹⁹⁴ serpens erat callidior cunctis animantibus agri^{195, 196} quae fecerat Dominus Deus. Qui dixit ad mulierem: “¹⁹⁷Verene¹⁹⁸ praecepit vobis Deus,¹⁹⁹ ut non comederetis de omni ligno paradisi?²⁰⁰” ²⁰¹.

2 Cui respondit mulier: “²⁰²De fructu lignorum, quae sunt in paradiso, vescimur;

3 de fructu vero ligni, quod est in medio paradisi, praecepit nobis Deus,²⁰³ ne comederemus²⁰⁴ et ne tangeremus illud, ne²⁰⁵ moriamur” ²⁰⁶.

4 Dixit autem serpens ad mulierem: “²⁰⁷Nequaquam morte moriemini!²⁰⁸

5 Scit enim Deus quod in quocumque die comederitis ex eo, aperientur oculi vestri,²⁰⁹ et eritis sicut Deus^{210,211} scientes bonum et malum” ^{211a}.

6 Vidit igitur mulier quod bonum esset lignum ad vescendum²¹² et pulchrum oculis²¹³ et desiderabile esset lignum ad intellegendum²¹⁴; et tulit de fructu illius²¹⁵ et comedit²¹⁶ deditque etiam²¹⁷ viro suo secum^{218,219} qui comedit.

7 Et aperti sunt oculi amborum.²²⁰ Cumque cognovissent esse se²²¹ nudos, consuerunt folia ficus²²² et fecerunt sibi perizomata.

2

19 神なる主はそれ故、すべての生き物、空を飛ぶすべての鳥を土から造り、それらを人のところに連れて行き、彼がそれらにどんな名をつけるかごらんになった。人が生き物につけたあらゆる名はすなわち、すべての生き物の名になった。

20 このように、人は、それぞれの名を用いて、すべての生命あるもの、すなわち、空のすべての鳥と地のすべての獣を呼んだ。けれども、人にとって、彼に似た助ける者は現れなかった。

21 そのため神なる主は人を深く眠らせた。その人が眠り込んだ時、その人の体から肋骨のひとつを取り出して、その場所に肉を再び補われた。

22 そして、神なる主は、アダムから取り出した一本の肋骨を女に造りあげ、これをアダムのところへ連れてきた。

23 そしてアダムは言った。「これらは、たった今、私の骨から出た骨であり、私の肉〔体〕から造られた肉である。これは女²²³と呼ばれよう。男から造られたのであるから。」

24 男が自分の父と母を残して去り、自分の妻と結びつくようになる。こうして一体になる。

25 ところで、二人共、すなわち、アダムとその妻は裸であった。とはいえ、二人は恥じなかった。

3

1 しかしまた、蛇は、神たる主が造られた地の全ての命ある物よりも狡猾だった。蛇は「なぜ神は、あなたがたに、楽園の全ての樹から食べないようにと命じたのか」とその女に言った。

2 女は蛇に答えた。「楽園にある樹の実について、私たちは食べられます。」

3 でも、楽園の真ん中にある樹の実については、それを食べないように、そしてそれに触れないようにと、神は私たちに命じました。死ぬようなことがないように。」

4 しかし、蛇は女に言った。「あなた方は決して死によって消え去ることはないだろう。」

5 なぜならば、あなた方がその果実を食べたら必ずあなた方の目が開かれて、あなた方が神のようになり、善と悪とを知るようになるだろうということを神は知っているからです。」

6 すると女はその木を見た。その木が食べるのにふさわしく、目にとって美しく、理解力をもつのに望ましいと思われた。そこで女はその木の実を取って食べ、さらに一緒に居た彼女の夫にも与えた。そして、夫も食べてしまった。

7 そして、二人の目が開かれた。彼らは自分たちが裸であることを知るようになったので、イチジクの葉を縫い合わせて、自分たちに腰帯を作った。

3

8 Et cum audissent vocem Domini Dei deambulantis in paradiso ad auram post meridiem, abscondit se Adam et uxor eius a facie Domini Dei in medio ligni paradisi.

9 Vocavitque Dominus Deus Adam²²⁴ et dixit ei: “²²⁵Ubi es?”²²⁶.

10 Qui ait: “²²⁷Vocem tuam audivi in paradiso²²⁸ et timui eo quod nudus essem²²⁹ et abscondi me”²³⁰.

11 Cui dixit: “²³¹Quis enim indicavit tibi quod nudus esses, nisi quod ex ligno,²³² de quo tibi²³³ praeceperam,²³⁴ ne comederes, comedisti?”²³⁵.

12 Dixitque Adam: “²³⁶Mulier, quam dedisti sociam mihi²³⁷, ipsa²³⁸ dedit mihi de ligno, et comedi”²³⁹.

13 Et dixit Dominus Deus ad mulierem: “²⁴⁰Quid²⁴¹ hoc fecisti?”²⁴² ²⁴³Quae respondit: “²⁴⁴Serpens decepit me, et comedi”²⁴⁵.

14 Et ait Dominus Deus ad serpentem: “²⁴⁶Quia fecisti hoc, maledictus es inter omnia pecora²⁴⁷ et omnes²⁴⁸ bestias agri²⁴⁹! ²⁵⁰Super pectus tuum gradieris²⁵¹ et pulverem²⁵² comedes cunctis diebus vitae tuae.

15 Inimicitias ponam inter te et mulierem²⁵³ et semen tuum et semen illius; ipsum²⁵⁴ conteret caput tuum, et tu conteres calcaneum eius²⁵⁵”²⁵⁶.

16 Mulieri²⁵⁷ dixit: “²⁵⁸Multiplicabo aerumnas tuas²⁵⁹ et conceptus tuos.²⁶⁰ in dolore paries filios, et ad virum tuum erit appetitus tuus²⁶¹, ²⁶²ipse autem²⁶³ dominabitur tui”²⁶⁴.

17 Adae vero dixit: “²⁶⁵Quia audisti vocem uxoris tuae²⁶⁶ et comedisti de ligno, ex quo praeceperam tibi,²⁶⁷ ne comederes, maledicta humus propter te²⁶⁸! ²⁶⁹In laboribus comedes ex ea cunctis diebus vitae tuae.

18 Spinās et tribulos germinabit tibi, et comedes herbas²⁷⁰ terrae;²⁷¹

19 in sudore vultus tui vesceris pane, donec revertaris ad humum²⁷², ²⁷³de qua sumptus es,²⁷⁴ quia pulvis es²⁷⁵ et in pulverem reverteris”²⁷⁶.

20 Et vocavit Adam nomen uxoris suae²⁷⁷ Eva²⁷⁸, eo quod mater esset cunctorum viventium.

21 Fecit quoque Dominus Deus Adae et uxori eius tunicas pelliceas²⁷⁹ et induit eos.

3

8 [二人は、] 午後、風に向かって楽園を歩き回る神なる主の声を聞いたので、アダムとその妻は神なる主の姿から楽園の樹木の間に実を隠した。

9 神なる主はアダムを呼んで言われた。「君はどこにいるのか。」

10 彼は答えた。「あなたの声を楽園の中で聞きました。私は裸であるから恐れて、それで私は隠れたのです。」

11 神はアダムに言った。「私がお前に食べるなど忠告しておいた木から何かをお前が食べたのでなければ、誰が裸であることをお前に教えたのだ?」

12 そして、アダムは言った。「あなたが私に伴侶として与えたまさにこの女が、木から私に与えたのです。それで私は食べたのです。」

13 すると、神なる主は女に言った。「どうして、このようなことをしたのか。」女は答えた。「蛇が私をだました。それで私は食べました。」

14 そこで、神なる主は蛇に言った。「お前は、それをしたので、すべての家畜と地の獣のあいだで、呪われたものとなった。お前は、その胸で這い、生きている間ずっと地を食むことになるだろう。」

15 私はお前と女、そしてお前の子孫と女の子孫を敵対関係に置こう。女の子孫は、お前の頭をつぶそうとするだろう。そして、お前は、お前の踵を噛み潰すだろう。」

16 また、女に言われた。「わたしは、あなたの苦しみ、みごもりを増し加えよう。あなたは、苦痛のなかで子どもを産むだろう。また、あなたは、あなたの夫を熱望するだろう。しかし、彼自身はあなたを支配することになる。」

17 さらに神はアダムにいった。「あなたは妻のことばを聞いて、あなたに食べないように命令した木から食べたから、あなたのために地は呪われた。それゆえ、あなたは生きている間ずっと苦勞して地から食べることになる。」

18 [地は、] あなたのために、イバラとヒシが芽吹くだろう。

19 あなたがそこから造られた地に戻るまで、あなたは、その顔に汗して、食物を得ることになる。というのも、あなたは、土くれであり、土に戻るからである。」

20 なぜなら、エヴァという名は全ての生けるものの母であるということによって、アダムは自分の妻の名をエヴァと名づけた。

21 神なる主はアダムと彼の妻に皮でできたトウニカを作って彼らのために着せた。

3

22 Et ait Dominus Deus²⁸⁰: “²⁸¹ Ecce homo²⁸² factus est quasi unus ex nobis²⁸³, ut sciat²⁸⁴ bonum et malum; nunc ergo,²⁸⁵ ne²⁸⁶ mittat manum suam²⁸⁷ et sumat etiam de ligno vitae²⁸⁸ et comedat²⁸⁹ et vivat in aeternum!^{290+ 291}”

23 ²⁹²Emisit eum Dominus Deus de paradiso Eden²⁹³, ut operaretur humum²⁹⁴, de qua sumptus est.

24 Eiecitque hominem^{295,296} et collocavit ad orientem paradisi Eden²⁹⁷ cherubim²⁹⁸ et flammeum gladium atque versatilem ad custodiendam viam ligni vitae.

(続)

3

22 そして、神なる主は言った。「見よ。人は、私たちの一人のように善と悪を知っているものとなった。だから、手を伸ばして、生命の木から取って、食べて、永遠に生きることをさせてはならない。」

23 主なる神は、アダムを、そこから取られた地〔の仕事〕に携わせるために、楽園から送り出した。

24 神なる主は人を追い出し、エデンの園の東に、ケルビムと、光り輝き回転する剣を置き、生命の樹への道を見張らせた。

(続)

- ¹ 監訳者の足立は、ラテン語学・言語学を専門とした研究者ではないが、これまでの研究生活で学んできたことを、このようなかたちで社会に還元していくことも、大学人としての一つの責務ではないかと考えている。また、オープン・ユニバーシティでの講義は地味な取り組みではあるが、大学としての社会・地域貢献の一つであると考えている。
- ² 多種多様な方が受講して下さることで、足立自身、受講者から学ばせていただくことも多い。受講者には失礼であるが、足立にとって、「ラテン語講座」は、大学外の社会・世界に触れることができる貴重で有益な機会となっている。
- ³ 2009年度・2010年度「ラテン語入門」、2011年度「ラテン語中級」、2012年度「ラテン語入門」、2013年度「ラテン語初中級」、2014年度「ラテン語入門」、2015年度「ラテン語初中級」、2016年度「ラテン語入門」、2017年度「ラテン語初中級」を開講した(各年度の受講者数などの資料を、「北星学園大学社会連携センター(前エクステンションセンター)」から提供を受けた。特に2017年度末をもって本学を退職した長澤武雄氏のお手を煩わせた。この場を借りて同氏のご厚意に謝意を表したい)。
- ⁴ 様々なレベルの受講者が混在するので、教科書を最初から一通り解説していくことになる。教科書は、これまで、大西英文『はじめてのラテン語』(講談社現代新書、1997年)、岩崎務『CDエクспレス ラテン語』(白水社、2004年)、同『ニュー・エクспレス ラテン語』(白水社、2011年)、中山恒夫『標準 ラテン文法』(白水社、1987年)を用いてきた。近年は、中山『標準 ラテン文法』を用いている(同書は、足立が、大学院時代に、学部の「ラテン語講座」を受講していたときの教科書でもある)。
- ⁵ 通年で24回(2013年度以降)(または30回(2012年度以前))の講義でラテン語の文法事項すべてを解説できるはずもなく(足立の講義スキルの拙さによる)、足立個人の責任で、正規の講義以外に、勉強会という名の補講を行っている。
- ⁶ 山本さんからは、2015年9月に、山本義行編著『教会ラテン語式による、ラテン語発音の手引き』の贈呈を受けた。どこかの媒体で、本論文を発表したいと考えている。
- ⁷ テキストは、山本さんが用意してくれた。なお、本稿執筆に当たって、2011年から講読してきたテキストの情報を、山田さんから提供していただいた。
- ⁸ チャールズ・H・ハスキンス著、別宮貞徳・朝倉文市訳『12世紀ルネサンス』(みすず書房、1997年)を参照。
- ⁹ バチカン市国(La Santa Sede) HP (<http://w2.vatican.va/content/vatican/it.html>) (2018年5月7日現在)を参照。
- ¹⁰ 『Liber Genesis』(http://www.vatican.va/archive/bible/nova_vulgata/documents/nova_vulgata_vt_genesis_it.html) (2018年5月7日現在)を参照。
- ¹¹ 『創世記(Liber Genesis)』ブルガータ版(ラテン語訳)として、学問的に信頼できるテキストかどうかは、足立には判断できない。
- ¹² 学問的に厳密な態度を要求するのであれば、ヘブライ語原典にも当たらなければならないことは承知している。ヘブライ語原典の読解については、足立の能力の範囲外である。ラテン語の勉強のための講義会ではあるが、この点、研究者として忸怩たる思いを感じている。
- ¹³ 本学には、旧約聖書学を専門とする山我哲雄教授と山吉智久准教授が在職している。山我先生と山吉先生に参加していただければ、読解・内容の正確な理解を得ることができる。しかし、本講読会の目的は、あくまでラテン語文献の読解にあることから、両先生に参加を呼びかけることはしなかった。この点、両先生にはご理解いただきたい。
- ¹⁴ 『*Biblia Sacra Juxta Vulgatam Clementinam*』(以下、Vulgata Clementinaと略する)では、1.1から2.3までが、「Creatio Mundi. (世界創造)」になっている。
- ¹⁵ Vulgata Clementinaでは、「erant (広がっていた)」がある。
- ¹⁶ Vulgata Clementinaでは、「;」がある。
- ¹⁷ Vulgata Clementinaでは、「“」がない。
- ¹⁸ Vulgata Clementinaでは、「”」がない。
- ¹⁹ Vulgata Clementinaでは、「Deus」がない。誤りである。「Deus」がある。
- ²⁰ Vulgata Clementinaでは、「.」がある。
- ²¹ Vulgata Clementinaでは、「Deus」がない。
- ²² Vulgata Clementinaでは、「divisit lucem a tenebris. (闇と光を切り離された)」になっている。
- ²³ Vulgata Clementinaでは、「Deus」がない。
- ²⁴ Vulgata Clementinaでは、「,」がある。

- 25 Vulgata Clementina では、「」がない。
- 26 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 27 Vulgata Clementina では、「”」がない。
- 28 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 29 Vulgata Clementina では、「,」がない。
- 30 Vulgata Clementina では、「,」がない。
- 30a Vulgata Clementina では、「”」がない。
- 30b Vulgata Clementina では、「”」がない。
- 31 Vulgata Clementina では、「et」がある。
- 32 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 33 Vulgata Clementina では、「Deus」がない。
- 34 Vulgata Clementina では、「”」がない。
- 35 Vulgata Clementina では、「herbam」がない。
- 36 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 37 Vulgata Clementina では、「”」がない。
- 38 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 39 Vulgata Clementina では、「herbam afferentem semen (種をもたらす草)」が、「facientem semen (種をつける草)」になっている。
- 40 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 41 Vulgata Clementina では、「qui habet in semetipso」が、「et habens unumquodque sementem」になっている。
- 42 Vulgata Clementina では、「”」がない。
- 43 Vulgata Clementina では、「ut」が、「et」になっている。
- 44 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 45 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 46 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 47 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 48 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 49 Vulgata Clementina では、「maguna luminaria」が「luminaria magna」になっている。
- 50 Vulgata Clementina では、「Deus」がない。
- 51 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 52 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 53 [] は、ラテン語原文にはないが、本講読会によって補充された部分である。
- 54 イスラエルでは、一日を日没から始まり翌日の日没までと考える。一見、日本人には違和感を生じるがこれを踏まえ、またラテン語本文の語順に従い「夕方と朝」と訳した。遊牧民の生活を考えると、昼は暑いから、一日は、夕方から始まったと想像できる(五十川, 杉山)(以降、訳注については、担当者の名前を記す)。
- 55 「firmamentum」とは、水谷智洋編『改訂版

羅和辞典』(2011年)によれば、「firmamentum」は「支え、支柱、土台」の意味を有している。フランシスコ会聖書研究所訳注『聖書 原文校訂による口語訳 創世記』(中央出版社, 1958年)の「宇宙についての聖書的概念」と「創世記1章6節・7節」によれば、最初、「terra」は大きな水の塊の中に存在し「terra」の上に空間はなかったと解釈した。神は「terra」の上に水を押しのけるような形で腕を伏せたような「支えあるいは土台となる構造物」を置いて、この構造物の上側と下側の水を分離し「terra」の上に空間を作ったと解釈した。この構造物が「firmamentum」である。そして、「創世記1章8節」で初めて、この「firmamentum」に「Caelum (天)」という名前が与えられている。そこで、私たちは1章8節までに現れる「firmamentum」については、その上方の水を支える構造物という点を重視して「土台」と訳した。

1章14節, 15節, 17節, 21節には「firmamento caeli」という語が見られるが、これは天体が配置される場となっているので、「天の大空」と訳した。

ちなみに、古代ヘブライ人たちは「firmamentum」の内側表面に太陽や月などの天体が存在し、「firmamentum」に開いた開閉式の穴からその上方の水が落ちてくるのを雨と考えていた。

なお、インターネットで“Ancient Hebrew Conception of the Universe”をキーワードに検索すると、古代ヘブライ人の宇宙観を示した図を多数みることができ、どれもいくつかの共通する資料から得たものである。しかし、共通する資料の出所を明らかにできなかった(相原)。

- 56 Vulgata Clementina では、「”」がない。
- 57 Vulgata Clementina では、「pullulent」が、「producant」となっている。
- 58 Vulgata Clementina では、「volet」がない。前半部分との繋がり、[空飛ぶものにも、地の上の天の下に[において、(躍動する生命を)与えよ]と訳する。
- 59 Vulgata Clementina では、「”」がない。
- 60 Vulgata Clementina には、「,」がある。
- 61 Vulgata Clementina では、「produxerant (生み出した)」になっている。
- 62 Vulgata Clementina では、「in」になっている。
- 63 Vulgata Clementina では、「,」となっている。

- 64 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 65 Vulgata Clementina では, 「Deus」がない。
- 66 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 67 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 68 Vulgata Clementina では, 「;」になっている。
- 69 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 70 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 71 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 72 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 73 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 74 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 75 Vulgata Clementina では, 「secundmu species suas (それぞれの種類に従って)」がない。
- 76 Vulgata Clementina では, 「Deus」がない。
- 77 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 77a Vulgata Clementina では, 「praesit」になっている。
- 78 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 79 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 80 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 81 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 82 Vulgata Clementina では, 「,」がない。
- 83 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 84 Vulgata Clementina では, 「,」になっている。
- 85 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 86 Vulgata Clementina では, 「;」がある。
- 87 Vulgata Clementina では, 「illis Deus」がない。
- 88 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 89 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 90 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 91 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 92 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 93 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 94 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 95 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 96 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 97 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 98 Vulgata Clementina では, 「,」がない。
- 99 Vulgata Clementina では, 「fructum ligni portantem sementem (種をもたらず木の実を)」が, 「sementem generis sui (その種類の種を)」になっている。
- 100 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 101 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 102 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 102a Vulgata Clementina では, 「,」がない。
- 103 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 104 Vulgata Clementina では, 「omnem herbam virentem ad vescendum (すべての緑の植物を食べるために)」が, 「ut habeant ad vescendum (食べものになるように)」になっている。
- 105 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 106 Vulgata Clementina では, 「,」がない。
- 107 Vulgata Clementina では, 「fecerat」になっている。
- 108 Vulgata Clementina では, 「;」になっている。
- 109 Vulgata Clementina では, 「ecce (見よ)」がない。
- 110 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 111 Vulgata Clementina では, 「orenatus (必要なもの)」になっている。
- 112 Vulgata Clementina では, 「,」がない。
- 113 Vulgata Clementina では, 「;」になっている。
- 114 Vulgata Clementina では, 「,」がない。
- 115 Vulgata Clementina では, 「Deus」がない。
- 116 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 117 Vulgata Clementina では, 「cessaverat (やめた)」になっている。
- 118 Vulgata Clementina では, 「,」がない。
- 119 Vulgata Clementina では, 「,」がない。
- 120 Vulgata Clementina では, 2.4から3.25までが, 「Paradisus Terrestris. (地上の楽園)」になっている。
- 121 Vulgata Clementina では, 「,」になっている。
- 122 Vulgata Clementina では, 「caelum et terram (天と地)」になっている。
- 123 Vulgata Clementina には, 「;」がある。
- 124 Vulgata Clementina では, 「そして (et)」がある。
- 125 Vulgata Clementina では, 「,」がない。
- 126 Vulgata Clementina では, 「omnemque herbam (全ての草)」になっている。
- 127 Vulgata Clementina では, 「,」がない。
- 128 Vulgata Clementina では, 「,」がない。
- 129 Vulgata Clementina では, 「terram」になっている。
- 130 Vulgata Clementina では, 「;」になっている。
- 131 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 132 Vulgata Clementina では, 「,」になっている。
- 133 Vulgata Clementina では, 「tunc (それから)」がない。
- 134 Vulgata Clementina では, 「igitur (それで)」がある。
- 135 Vulgata Clementina では, 「hominem de

- limo terrae, (地の泥から人を)」になっている。
- 136 Vulgata Clementina では、「faciem (顔)」になっている。
- 137 Vulgata Clementina では、「et」がない。
- 138 Vulgata Clementina では、「plantaverat」になっている。
- 138a Vulgata Clementina では、「autem」がある。
- 139 Vulgata Clementina では、「paradisum voluptatis a principio (まず喜びの園)」になっている。
- 139a Vulgata Clementina では、「;」になっている。
- 140 Vulgata Clementina では、「,」がない。
- 141 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 142 Vulgata Clementina では、「;」になっている。
- 143 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 144 Vulgata Clementina では、「de loco voluptatis (喜びの場所から)」になっている。
- 145 Vulgata Clementina では、「;」になっている。
- 146 Vulgata Clementina では、「,」がない。
- 147 Vulgata Clementina では、「Hevilath」になっている。
- 148 Vulgata Clementina では、「nascitur (生まれる)」になっている。
- 149 Vulgata Clementina では、「fluvii secundi」になっている。
- 150 Vulgata Clementina では、「Gehon」になっている。
- 151 Vulgata Clementina では、「;」になっている。
- 152 Vulgata Clementina では、「,」がない。
- 153 Vulgata Clementina では、「circumit」になっている。
- 154 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 155 Vulgata Clementina では、「Tygris」になっている。
- 156 Vulgata Clementina では、「;」になっている。
- 157 Vulgata Clementina では、「contra Assyrios (アッシリア人に向かって)」になっている。
- 158 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 159 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 160 Vulgata Clementina では、「paradiso voluptatis (楽園)」になっている。
- 161 Vulgata Clementina では、「Dominus Deus (主なる神)」がない。
- 162 Vulgata Clementina では、「ei (人)」になっている。
- 163 Vulgata Clementina では、「"」がない。
- 164 Vulgata Clementina では、「"」がない。
- 165 Vulgata Clementina では、「"」がない。
- 166 Vulgata Clementina では、「faciamus」になっている。
- 167 Vulgata Clementina では、「sibi」になっている。
- 167a Vulgata Clementina では、「"」がない。
- 168 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 169 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 170 Vulgata Clementina では、「terrae,」になっている。
- 171 Vulgata Clementina では、「,」がない。
- 172 Vulgata Clementina では、「生命あるもの (animanrtia)」になっている。
- 173 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 174 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 175 Vulgata Clementina では、「terrae」になっている。
- 175a Vulgata Clementina では、「.」になっている。
- 176 Vulgata Clementina では、「;」になっている。
- 177 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 178 Vulgata Clementina では、「.」になっている。
- 179 Vulgata Clementina では、「;」がある。
- 180 Vulgata Clementina では、「"」がない。
- 181 Vulgata Clementina では、「hoc (ここにあるのは)」になっている。
- 182 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 183 Vulgata Clementina では、「!」が「;」になっている。
- 184 Vulgata Clementina では、「haec (これ)」がない。
- 185 Vulgata Clementina では、「"」がない。
- 186 Vulgata Clementina では、「quam ob rem」が「quamobrem」になっている。
- 187 Vulgata Clementina では、「homo」になっている。
- 188 Vulgata Clementina では、「,」がある。
- 189 Vulgata Clementina では、「二人 (duo)」がある。
- 190 Vulgata Clementina では、「carna una」になっている。
- 191 Vulgata Clementina では、「erat」になっている。
- 192 Vulgata Clementina では、「nudus」になっている。
- 193 Vulgata Clementina では、「;」になっている。
- 194 Vulgata Clementina では、「sed (しかし)」になっている。
- 195 Vulgata Clementina では、「terrae」になっている。

- 196 Vulgata Clementina では, 「,」がない。
- 197 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 198 Vulgata Clementina では, 「cur (なぜ)」に
なっている。
- 199 Vulgata Clementina では, 「,」がない。
- 200 Vulgata Clementina では, 「?」がない。
誤りである。「?」がある
- 201 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 202 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 203 Vulgata Clementina では, 「,」がない。
- 204 Vulgata Clementina には, 「,」がある。
- 205 Vulgata Clementina には, 「ne forte
moriatur (死ぬようなことがあってはならな
いからと)」になっている。
- 206 Vulgata Clementina には, 「"」がない。
- 207 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 208 Vulgata Clementina では, 「!」がない。
- 209 Vulgata Clementina では, 「,」が「;」になっ
ている。
- 210 Vulgata Clementina では, 「Deus (神)」が
「Dii (それぞれの神)」になっている。
- 211 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 211a Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 212 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 213 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 214 Vulgata Clementina では, 「et desiderabile
esset lignum ad intellegendum (理解力をもつ
のに望ましいと (思われた)」が, 「apectuque
delectabile (見て美味しそうだと)」になっ
ている。
- 215 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 216 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 217 Vulgata Clementina では, 「etiam」がない。
- 218 Vulgata Clementina では, 「secum (一緒に
居た)」がない。
- 219 Vulgata Clementina では, 「,」がない。
- 220 Vulgata Clementina では, 「;」になっている。
- 221 Vulgata Clementina では, 「se esse」になっ
ている。
- 222 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 223 女をラテン語, ヘブル語では virago・イッ
シャー, 男は vir・イーシュとなる。それぞれ
発音が似ており, 語呂合せとなっている (五十
川)。
- 224 Vulgata Clementina には, 「,」がある。
- 225 Vulgata Clementina には, 「"」がない。
- 226 Vulgata Clementina には, 「"」がない。
- 227 Vulgata Clementina には, 「"」がない。
- 228 Vulgata Clementina には, 「;」がある。
- 229 Vulgata Clementina には, 「,」がある。
- 230 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 231 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 232 Vulgata Clementina では, 「,」がない。
- 233 Vulgata Clementina では, 「お前 (tibi) が
「praeceperam」の後にある。
- 234 Vulgata Clementina では, 「,」がない。
- 235 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 236 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 237 Vulgata Clementina では, 「mihi sociam」に
なっている。
- 238 Vulgata Clementina では, 「ipsa」がない。
- 239 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 240 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 241 Vulgata Clementina では, 「quare」になっ
ている。
- 242 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 243 Vulgata Clementina では, 「.」がない。
- 244 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 245 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 246 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 247 Vulgata Clementina では, 「animantia (命あ
る生きもの)」になっている。
- 248 Vulgata Clementina では, 「omnes (すべて
の)」がない。
- 249 Vulgata Clementina では, 「terrae」になっ
ている。
- 250 Vulgata Clementina では, 「!」がない。
- 251 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 252 Vulgata Clementina では, 「terram」になっ
ている。
- 253 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 254 Vulgata Clementina では, 「ipsa (女は)」に
なっている。
- 255 Vulgata Clementina では, 「tu congteres
calcaneus eius (お前はその踵を噛み潰す
であろう)」が, 「tu insidiaberis calcaneo eius
(お前は彼女の踵に (噛みつこうとして) 待ち
伏せしているだろう)」になっている。
- 256 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 257 Vulgata Clementina では, 「quoque」がある。
- 258 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 259 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 260 Vulgata Clementina では, 「;」になっている。
- 261 Vulgata Clementina では, 「ad virum tuum
erit appetitus tuus (あなたの夫を熱望する
だろう)」が, 「sub viri potestate eris (あな

- たは男の権力の下におかれ)」になっている。
- ²⁶² Vulgata Clementinaでは、「et」がある。
- ²⁶³ Vulgata Clementinaでは、「autem (しかし)」がない。
- ²⁶⁴ Vulgata Clementinaでは、「”」がない。
- ²⁶⁵ Vulgata Clementinaでは、「“」がない。
- ²⁶⁶ Vulgata Clementinaでは、「,」がない。
- ²⁶⁷ Vulgata Clementinaでは、「,」がない。
- ²⁶⁸ Vulgata Clementinaでは、「maledicta humus propter te (お前のために地は呪われた)」が、「maledicta terra in opera tuo (お前のしたことによって地は呪われた)」になっている。
- ²⁶⁹ Vulgata Clementinaでは、「!」がない。
- ²⁷⁰ Vulgata Clementinaでは、「herbam」になっている。
- ²⁷¹ Vulgata Clementinaでは、「.」になっている。
- ²⁷² Vulgata Clementinaでは、「ad humum」が「in terram」になっている。
- ²⁷³ Vulgata Clementinaでは、「,」がない。
- ²⁷⁴ Vulgata Clementinaでは、「;」になっている。
- ²⁷⁵ Vulgata Clementinaでは、「,」がある。
- ²⁷⁶ Vulgata Clementinaでは、「”」がない。
- ²⁷⁷ Vulgata Clementinaでは、「,」がある。
- ²⁷⁸ Vulgata Clementinaでは、「Heva (ヘヴァ)」になっている。
- ²⁷⁹ Vulgata Clementinaでは、「,」がある。
- ²⁸⁰ Vulgata Clementinaでは、「Dominus Deus」がない。
- ²⁸¹ Vulgata Clementinaでは、「“」がない。
- ²⁸² Vulgata Clementinaでは、「Adam」になっている。
- ²⁸³ Vulgata Clementinaでは、「factus est quasi unus ex nobis」が、「quasi unus es nobis factus est」になっている。
- ²⁸⁴ Vulgata Clementinaでは、「ut sciat」が、「sciens」になっている。
- ²⁸⁵ Vulgata Clementinaでは、「,」がない。
- ²⁸⁶ Vulgata Clementinaでは、「forte」が補われている。
- ²⁸⁷ Vulgata Clementinaでは、「,」がある。
- ²⁸⁸ Vulgata Clementinaでは、「,」がある。
- ²⁸⁹ Vulgata Clementinaでは、「,」がある。
- ²⁹⁰ Vulgata Clementinaでは、「!」がない。
- ²⁹¹ Vulgata Clementinaでは、「”」がない。
- ²⁹² Vulgata Clementinaでは、「et (そして)」がある。
- ²⁹³ Vulgata Clementinaでは、「Eden」が
- 「voluptatis」になっている。
- ²⁹⁴ Vulgata Clementinaでは、「humum」が「terram」になっている。
- ²⁹⁵ Vulgata Clementinaでは、「アダム (Adam)」となっている。
- ²⁹⁶ Vulgata Clementinaでは、「,」がある。
- ²⁹⁷ Vulgata Clementinaでは、「樂園の前方に (ante paradisum voluptatis)」になっている。
- ²⁹⁸ Vulgata Clementinaでは、「,」がある。